

関係機関・団体長
病害虫防除員
農薬管理指導士

様

山口県病害虫防除所長

トビイロウンカの長期予報（技術資料第7号）について

本年のトビイロウンカの発生型予測について下記のとおり送付しますので防除指導の参考にしてください。

記

1 予報内容

(1) 対象地域 県内全域

(2) 今後の予測

ア 過去の発生データを利用した解析方法による予測結果では、8月5日に発表した長期予報（技術資料第6号）の予測結果と同様、「少発生型」になる確率が高い（発生型については参考資料を参照のこと）。

イ 本年は坪枯れの発生する可能性は低いと予測される。

2 防除対策

(1) 本年は発生密度が低く、このまま推移すれば防除の必要性は低い。

ただし、第3世代幼虫最盛期（（2）参照）にほ場で発生密度を確認のうえ、防除の目安を超えるほ場は直ちに防除を実施する。

(2) 防除適期（第3世代幼虫最盛期）

8月29日～9月2日頃

9月6日～11日頃

9月16日～24日頃

(3) 防除の目安

8月中旬～9月上旬は1株当たり成幼虫5頭以上

(4) 本年はセジロウンカ短翅成虫及びヒメトビウンカの発生が多いため、ほ場を確認する際には見誤らないようにする。

3 発生状況

(1) 8月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は1.2%（平年19.2%）、10株当たり虫数は0.005頭（平年9.0頭）で平年に比べやや少なかった。

なお、巡回調査で確認されたトビイロウンカは6月21日頃に飛来したものと推測された。

(2) 飛来は6月9日（少）、21日（少）頃に認められた。その後は認められなかったが、7月2日、4日頃に下層ジェット気流が発達した時期があった。

注）（少）は少飛来

(3) 予察灯での誘殺数（4か所、6月1日～8月10日）は、2頭（平年32.2頭）で平年に比べやや少なかった。

4 その他

今回の予測は7月18日、8月5日に長期予報として発表した情報の最終予測である。

< 参考資料 >
発生型の解説

		少発生型	9月発生型	8月後半発生型	初期多発生型
各発生型になる確率					
5月中旬移植		85.7%	4.3%	10.0%	-
5月下旬移植		84.6%	12.1%	3.3%	-
6月上旬移植		84.3%	3.3%	13.3%	-
定義		全体的に発生量が少なく、発生ピークの不明瞭な発生型	9月に入り、主に第3世代幼虫が増加し、発生ピークとなる発生型	8月4～6半旬に、主に第2世代成幼虫が増加し、発生ピークとなる発生型	8月前半に、主に第2世代の幼虫が急増する発生型
発生の 模式図	密度				
	月	7月 8月 9月	7月 8月 9月	7月 8月 9月	7月 8月 9月
発生年の概要		少発生年に多い発生型	一部地域で多発生することがある発生型	多発生年に出現が多い発生型	激発生年に多い発生型
坪 枯 れ	発生時期	9月	9月上旬以降	8月下旬以降	8月中旬以降
	発生程度	極少～少	少	並～多	多
対策 (防除の目安を越えるほ場)		防除の目安を越える一部のほ場のみ防除し、他は防除の必要なし	8月中下旬に防除を実施する	7月下旬～8月上旬に防除を実施する	7月中下旬に防除を徹底する

注) 予測方法は、過去35年間における県予察ほ場(山口市大内)のウンカ類発生状況、飛来状況及び気象条件から本年の発生型を各移植時期別に判別し、本年の県内の巡回調査ほ場、予察灯の状況等を考慮し決定している。

JPP - NET病害虫発生予測システム

	8月		9月					10月				
	飛来日	20	25	1	5	10	15	20	25	1	5	10
トビロウカ												
6月9日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月21日	A	A	A	A	A	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	@	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o
7月4日	@	@	@	@	@	@	@	@	@	@	@	@

予測日 2008年 8月 18日

凡例 A: 成虫 - : 卵 o: 幼虫 +: 蛹 @: 防除適期
 主要な飛来 多飛来 並飛来 少飛来

図 トビロウカの防除適期予測